

2017. 10. 31 谷汲山華嚴寺本堂



上記は、“養老の瀧”<http://ascension-hokuriku.net/5-hakusan/2017.10.31.pdf> 後半に掲載した写真です^^

西国三十三所観音霊場、第三十三番札所である“谷汲山華嚴寺”の御本尊は、秘仏“十一面観音”

秦澄大師が白山の頂上で感得した、白山妙理大権現の本地仏でもあります

その日が、2017年の御本尊特別拝観最終日であった事を知らずに立ち寄ったのですが

本堂左手、間近に拝することが出来、驚きと、そして、この時をずっと待っていて下さった？かのような

自身の奥深いところから込み上げてくる、切なさ、愛おしさを感じました

本堂正面に立つと、自己の核心と共鳴するように、一面が真っ赤に塗りつぶされていく感じがして

その時撮った写真には、“日の丸”?! = “愛の太陽!!”が写しだされていました！

帰宅後にネットで調べてみると、2018年は西国三十三所草創1300年の、記念の年との事

華嚴寺は、三十三番札所であり、巡礼の満願・結願の寺

まさに1300年の歴史、すべての願いの、最終ゴール地点でもあるような気がします

そして、2018年の特別拝観は

“大日如来”!

菩薩(陰・月)から、如来(陽・日)へのアセンション!!

“太陽の世の到来!!”

を感じます(*^^*)

本来、“仏”（仏陀）とは、悟りを開いた人である“釈迦”を指す言葉であったそうですが
後に、様々な思想や造像などの広がりによって、たくさんの宗派が生まれ
仏像の種類も、大きく、「如来、菩薩、明王、天、その他」の、5種にわかれているとの事です
大日如来とは、密教の本尊とされ、
一切の諸仏菩薩の本地、森羅万象であり、宇宙そのものとされるそうです
大いなる日輪、一切万物を遍く照らし育む、“太陽”そのままを象徴する如来と感じます

十一面観音は菩薩であり、
如来（悟り）の一步手前、まだ修行をしている姿と言われます
何故“十一”なのでしょう？ 様々な捉え方があるようで
「十一の数の由来については、明確な根拠に乏しい」とあり、ウィキペディアには
大光普照（だいこうふしょう）観音とも呼ばれ、頭上の11面のうち、
前後左右の10面は菩薩修行の階位である十地を表し、最上部の仏面は仏果を表すとされるが、
これは衆生の十一品類の無明煩惱を断ち、仏果を開かせる功德を表すとされる。
「救わで止まじ」の誓願を持つがゆえに、大悲闍提とも呼ばれる。

と記されています。他には、
「“八方位”に プラス“天”と“地”、その全ての“中心”を加えた数で、あらゆる方向を見渡すため」
と説明されているものもありました^^

インターネットを通して、短時間で、たくさんの情報を得る事が出来る時代になり、
中身空っぽ（笑）の私は、日々感謝です！<(_ _)>

知識だけでなく、絵（写真）や文調、音楽等から、パワー（エネルギー）が伝わってきて
∞の可能性の扉、“どこでもドア”？のようでもあります^^



“IT”は、Information Technology = 情報技術の略とされますが、T 先生のおっしゃる

Imagination Technology !!

中今、新しい宇宙（NMC）へとつながる、“意識の滑走路”のような気がします！
みんなが共有する空間ならば、明るく美しいエネルギーで満たしたい！

「正しい」、「間違っている」はなく、自分が何を選択し、どう生かしていくかが重要だと思います



木造十一面観音立像 法華寺

十一面観音の面（顔）の数と配置には、多少の違いがあるそうですが、
頭頂に仏面（如来面）が1面、
頭部前面には、菩薩面が3面、
側面には、瞋怒面（憤怒）と狗牙上出面（讚嘆）が、各3面ずつ、

後頭部には大笑面が1面で、合計11面となっているそうです

顔(面)中の一つに“悟ったもの”を表す、仏面(如来面)をもつことから、
観音菩薩は、真の身分(如来)を隠して人に寄り添う、大慈悲心の権化とも言われるようです

十一面観音は、正面にある、本来の顔を入れると全部で“12”

私には、なんとなく“12”が、ひとつの区切り、完成形のように思われます

人がメイン(正面)の顔=自分である事を自覚した時、真の仏(大宇宙)となるのでは？

そんな気がします^^

隠された11番目のセフィラ“ダアト”をもつ“生命の樹”

「隠された意味は、悟り、気づき。神が普遍的な物に隠し、賢い者は試練として

見つけようとした、「神の真意」という意味である。」

隠されていたのは、普遍=“愛(慈愛)”であり、仏面を隠し菩薩となった

“十一面観世音”=“白山菊理姫”?! (*^^*)



華厳寺では、その日感じたことを、そのまま書き記したのですが、

自分の言葉であって、そうでないような… 奥にある何かを感じていました

中今、意識に浮かび上がってきたのは、何故か、ルシフェル(ルシファー)です

天(使)界? ^^; の私ですが、名前だけはよく知っていて

天使なのにサタンって、どういうことかしら。。。?とっていました

「明けの明星を指すラテン語であり、光をもたらす者という意味をもつ悪魔・墮天使の名である。

天使たちの中で最も美しい大天使であったが、創造主である神に対して謀反を起こし、
自ら墮天使となったと言われる。墮天使となった理由や経緯については様々な説がある。」

(ウィキペディア)

ルシフェルは、ヘブライ語「ヘレル・ベン・サハール」の訳で、“明けの明星”の意

ラテン語では、「光を発するもの」、「明るく照らすもの」とあり

やっぱり本当は、**光の大天使**なのです!! ^^

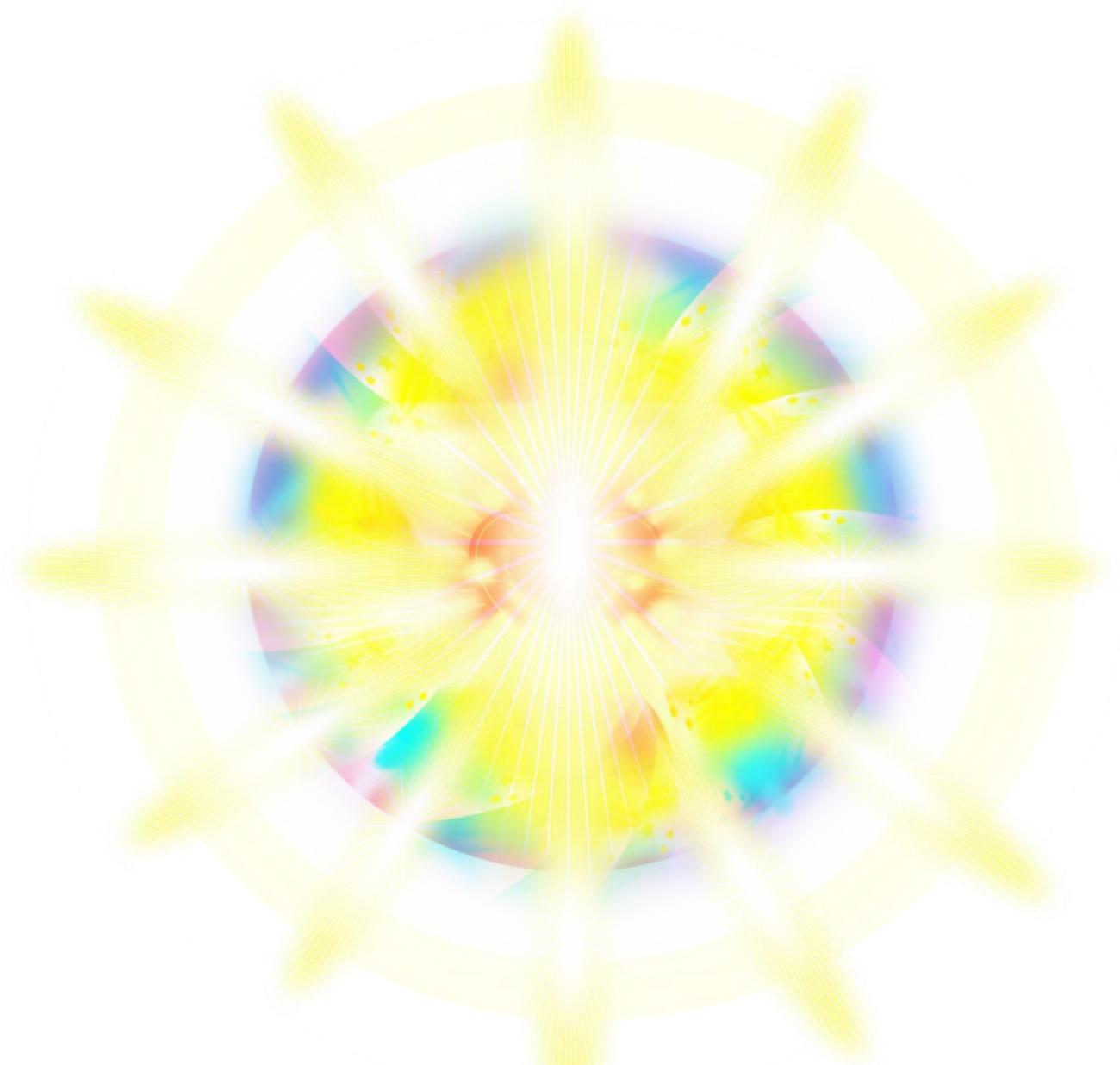
二元論(二極性)で成り立ち、軋轢、葛藤から多くの事を学んできた地上社会において、

人を導く為に、“陽”(善)に対する、“陰”(悪)の役割を担う存在が、

必要だったのではないしょうか？

人が進化・統合(アセンション)すれば、その役割を終え、本来の姿へと帰っていく！

その時がやって来たのだと思います!!



燦々と光輝く惑星“地球”そのものが、ルシフェルのように感じられます！

＼(^o^)／

華嚴寺の草創について、ホームページには、このように記されていました

奥州会津の出身の大領はつねづねより十一面観世音の尊像を建立したいと強く願っており、奥州の文殊堂に参籠して一心に有縁の霊木が得られるようにと誓願を立て、七日間の苦行の末、満願(七日目)の明け方に十四、五の童子(文殊大士と呼ばれる)の御告げにより霊木を手に入れる事が出来ました。

霊木を手に入れた大領は都に上り、やっとの思いで尊像を完成させました。

そして京の都から観音像を奥州へ運んでいこうとすると、観音像は近くにあった藤蔓を切って御杖にして、御笠を被り、わらじを履いて自ら歩き出しました。

途中、美濃国赤坂(現:岐阜県大垣市赤坂)にさしかかった時、観音像は立ち止まり、「遠く奥州の地には行かない。我、これより北五里の山中に結縁の地があり、其処にて衆生を済度せん」

と述べられ、奥州とは異なる北に向かって歩き出しました。

そうしてしばらくした後、谷汲の地に辿り着いた時、観音像は歩みを止め、突然重くなって一步も動かなくなったので、

大領はこの地こそが結縁の地だろうと思い、この山中に柴の庵を結び、三衣一鉢、
誠に持戒堅固な豊然上人という聖(ひじり)が住んでいたの、大領は上人と力を合わせて山谷を開き、
堂宇を建てて尊像を安置し奉りました。すると堂近くの岩穴より油が滾々と湧き出し尽きることが無いので、
それより後は燈明に困ることが無かったといひます。

何故かこの文面に惹かれ、最初に読んで感じた事は、
会津の為に、こんなに苦勞して完成させた御本尊なのに、何故「帰らない」などと言うのだろう…
という疑問と、また、御本尊がまるで、駄々っ子のように思えて、可笑しくもあったのですが
暫くすると、「これは、身勝手な人の思いなのかも?」という感覚がわいてきて、
笑った自分を反省しました

地上セルフの頭の中で、思考がグルグルまわっている…、というよりも、
別の存在と対話している、という感覚に近い感じがします
すべての仏様は、明確な役割と使命感をもって、確かに私達の身近に存在している——
その事にまるで無関心で、ただ都合よく生きていた自分だった、と思いました
それが仏界や、天界と呼ばれているものなのかもしれません
ルシフェルの、使命感に燃える愛の炎が、共鳴の渦となって広がっていくのを感じます
(*^^*)

また、西国三十三所巡礼の創始ついて、1300年記念ページによると
『養老年間(717~723)、大和長谷寺の開山徳道上人が病のために亡くなるが、
冥途の入口で、閻魔大王に会い
『生前の罪業によって地獄へ送られる者があまりにも多いことから、日本にある三十三箇所の観音霊場を巡れば、
滅罪の功德があるので、巡礼によって人々を救うように』との託宣を受けるとともに、
起請文と三十三の宝印を授かり、現世に戻された。』とあります。
当初は、民衆から信用が得られず、あまり普及しなかったため、宝印を一旦、摂津国中山寺の
石櫃に納めることとなりましたが、約270年後、花山法皇によって再興されたとの事です
地獄の門番と恐れられる“閻魔大王”、それはルシフェルでもあり、
ここにも、魔王(サタン)とされるものの、真の姿が表現されていると感じます
今更ですが、感謝です^^

人の進化について、『天の岩戸開き Ai 著』より抜粋です

様々な意味において、「人」(霊止、日戸)は、究極の宇宙の「雛形」です

(実は「人」こそが重要で、すべての鍵なのです)

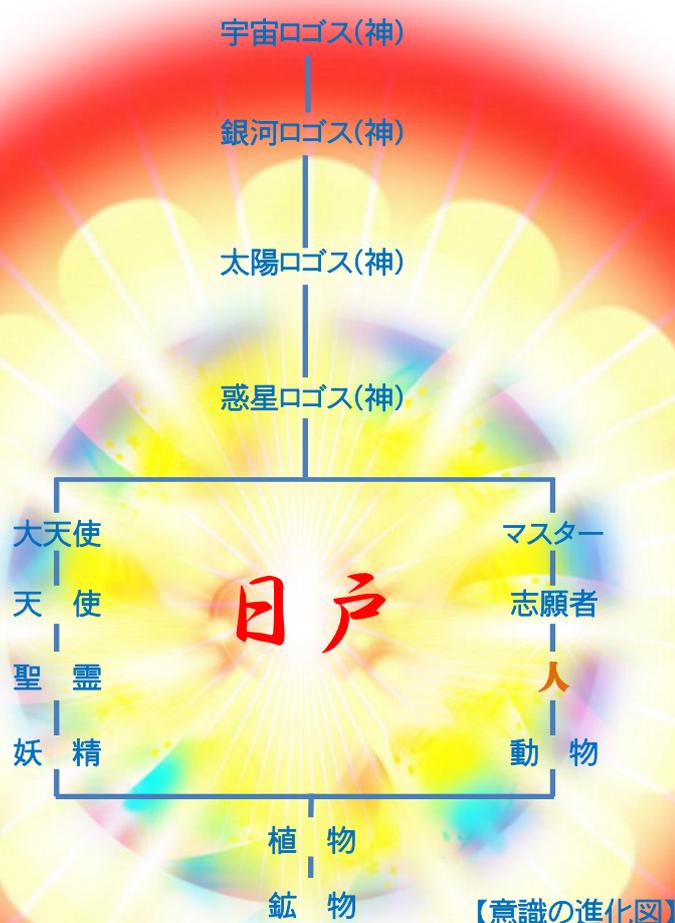
一人一人の『魂』は、根源の神の全き分身、分御魂です

「神智学」を観ると分かるように、人は進化するとマスターや大天使となっていく、

やがて、惑星神そのものへと至ります

同様に、惑星は太陽に、太陽は銀河に、銀河は宇宙にと進化していくのです

人の進化とは、極まれば真の宇宙そのもの、宇宙創造主へと至るための、悠久の道程なのです



【意識の進化図】、私の中今イメージです！

「鉱物、植物、動物、人」しか見えていなかった私の世界が、こんなに大きく広がっていました(^-^)/

“ルシフェル”も“大日如来”も、この中にある、私自身なのだと思います！

人(日戸)は小さいけれど、根源の神の、∞のポータル！！！！

大切な愛の子供です(*^^*)

2018. 2. 23 根源の愛の子供 善美 rumines